

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 委員会関係					
提案1	(機能別委員会) 科学者委員会 (1)分科会委員の決定 (追加1件)	(1)会長	B(5)	科学者委員会における分科会の委員を決定する必要があるため。	三成副会長 内規18条
提案2	(機能別委員会) 科学と社会委員会 (1)分科会委員の決定 (追加1件)	(1)会長	B(7)	科学と社会委員会における分科会の委員を決定する必要があるため。	渡辺副会長 内規18条
提案3	(機能別委員会) 国際委員会 (1)運営要綱の一部改正(新規設置1件) (2)分科会委員の決定 (新規1件、追加1件)	(1)国際委員会委員長 (2)会長	B(9-11)	(1)国際委員会に持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019分科会を設置することに伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 (2)国際委員会における分科会委員を決定する必要があるため。 ※国際委員会 5月29日承認	武内副会長 (1)会則27条1項 (2)内規18条
提案4	(分野別委員会) 運営要綱の一部改正 (新規設置1件)	臨床医学委員会委員長	B(13-14)	改元及び分科会の設置に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。	各部署長 会則27条1項
2. 提言等関係					
提案5	提言「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	C(1-27)	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会、臨床医学委員会臨床ゲノム医学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会菅野純夫委員長 内規3条1項
3. 国際関係					
提案6	令和元年度代表派遣について、計画の変更及び派遣者を決定すること	会長	B(15)	令和元年度代表派遣について、計画の変更及び派遣者を決定する必要があるため。	武内副会長 国際学術交流事業に関する内規19条2項及び21条2項
提案7	令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	B(17-18)	令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。 ※国際委員会 5月29日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会 5月17日承認	武内副会長 国際学術交流事業に関する内規53条5項

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

【令和元年度第2四半期】追加分

提案8	学術フォーラム「いま問われる物理教育改革ーより効果的な理工学教育をめざして」の開催について	会長	B(23-24) ※全体概要 B(19-21)	主催：日本学術会議 日時：令和元年9月27日(金) 10:00～16:50 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1
提案9	公開シンポジウム「日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場から」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	B(25-26)	主催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会 日時：令和元年7月28日(日) 13:00～16:40 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1

5. その他のシンポジウム等

提案10	公開シンポジウム「和牛の地方特定品種の重要性」	食料科学委員会委員長	B(27-28)	主催：日本学術会議 食料科学委員会畜産学分科会 日時：令和元年7月18日(木) 13:00～17:30 場所：高知大学農林海洋学部 5-1 講義室 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム「インセクトワールドー多様な昆虫の世界ー」	農学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議 農学委員会応用昆虫学分科会 日時：令和元年8月3日(土) 13:00～16:45 場所：東京大学農学部1号館8番教室 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム「安全工学シンポジウム2019」	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	B(31-33)	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和元年7月3日(水)～5日(金) 10:00～16:30 場所：日本学術会議講堂、他5室 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「第9回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム(JCOSSAR2019)」	機械工学委員会	B(35-37)	主催：日本学術会議機械工学委員会 日時：令和元年10月23日(水)～25日(金) 9:30～17:30 場所：日本学術会議講堂 外3室 ※第三部承認	—	内規別表第1

6. 後援

提案14	国内会議の後援をすること	会長	—	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとした。 ①日本土壌肥料学会2019年度静岡大会シンポジウム 主催：日本土壌肥料学会 期間：令和元年9月3日(火)～5日(日) 場所：静岡県静岡市 参加予定者数：1,000名 申請者：日本土壌肥料学会会長 犬伏和之 ※第二部承認	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	---	--	----	-----------------

			<p>②第17回メンタルケア學術学会學術大会 主催：メンタルケア學術学会 期間：令和元年10月19日(土)～20日(日) 場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 申請者：メンタルケア學術学会理事長 別府武彦 ※第一部承認</p> <p>③第21回日本感性工学会大会 主催：日本感性工学会 期間：令和元年9月12日(木)～14日(土) 場所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス 参加予定者数：約500名 申請者：日本感性工学会会長 庄司裕子 ※第三部承認</p> <p>④第16回日本社会福祉学会フォーラム 主催：一般社団法人日本社会福祉学会 期間：令和元年11月30日(土) 場所：日本福祉大学東海キャンパス 申請者：一般社団法人日本社会福祉学会 会長 金子光一 ※第一部承認</p>	
--	--	--	--	--

7. その他

提案15	日本學術会議の活動状況等に関する年次報告(平成30年10月～令和元年9月)の作成について決定すること	科学と社会委員会委員長	B(39-47)	日本學術会議の活動状況等に関する年次報告(平成30年10月～令和元年9月)について、構成等を決定する必要があるため。	渡辺副会長	—
------	--	-------------	----------	--	-------	---

II その他

件名		資料(頁)
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は6月27日(木)13時30分開催	D(1)

【機能別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

（科学者委員会研究評価分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
木部 暢子	人間文化研究機構国立国語研究所副所長・ 教授	第一部会員	副会長

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（科学と社会委員会メディア懇談分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
遠藤 薫	学習院大学法学部教授	第一部会員	副会長

○国際委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

①別表1中の設置期間における「平成32年」を「令和2年」とする。

②別表1中の一部を以下の新旧対照表のとおり改正する。

改正後				改正前			
別表1				別表1			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2018等分科会	(略)	(略)	設置期間： <u>平成30年6月28日～令和元年7月31日</u>	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2018等分科会	(略)	(略)	設置期間： <u>平成30年6月28日～平成31年7月31日</u>
<u>持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019分科会</u>	<u>持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること</u>	<u>副会長（日本学術会議会則第5条第3号担当）及び会員又は連携会員若干名</u>	<u>設置期間：令和元年5月30日～令和2年6月30日</u>	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	副会長(日本学術会議会則第5条第3号担当)及び会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること。
5	設置期間	令和元年5月30日～令和2年6月30日
6	備考	※新規設置(平成15年から「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための分科会を都度設置している。)

【機能別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
佐藤 岩夫	東京大学社会科学研究所長、教授	第一部会員 第一部部長	副会長
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員 第一部幹事	副会長
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員	副会長
湯澤 直美	立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科教授	連携会員	副会長

※国際活動担当副会長（充て職）及び会員又は連携会員若干名で構成することとされている。

○委員の追加（追加1件）

（国際委員会ISC等分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員 第一部幹事	副会長
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員	副会長

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

提案4

①別表第1中の設置期間における「平成32年」を「令和2年」とする。

②別表第1の一部を以下の新旧対照表のとおり改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
経営学委員会	経営学委員会経営学大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会	(略)	(略)	平成29年10月30日～令和元年9月30日	経営学委員会	経営学委員会経営学大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会	(略)	(略)	平成29年10月30日～平成31年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会慢性疼痛分科会	1. 慢性疼痛の重要事項 2. 慢性疼痛の研究連携及び有効性の向上に係る審議に関すること	6名以内の会員又は連携会員	令和元年5月30日～令和2年9月30日		(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

この決定は、決定の日から施行する。

臨床医学委員会分科会の設置について

分科会等名：慢性疼痛分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	臨床医学委員会
2	委員の構成	6名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	慢性疼痛分科会は、慢性疼痛の診断と治療を科学的に評価し、その必要性を提言し、実現を図ることを推奨することにより、国民生活の質を向上させることを目的として設立する。慢性疼痛の重要事項を審議し、研究連携と実現させ、その有効性の向上を図る。 本分科会では、分野の異なる委員により多面的に議論を深める。
4	審議事項	1. 慢性疼痛の重要事項の審議 2. 慢性疼痛の研究連携及び有効性の向上に係る審議に関すること
5	設置期間	令和元年5月30日～令和2年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

令和元年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和元年度代表派遣実施計画について実施計画の変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	International Commission on the Clinical Use of Human Germline Genome Editing(臨床ヒトゲ ノム編集国際委員会)	8月 12～16 日 のうち 2 日	ワシントン (米国)	阿久津 英憲 特任連携会員 (国立研究開発法人国立成育医療研 究センター研究所再生医療センター 生殖医療研究部部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議名の変更(実施計画承認時には、「International Commission of Human Genome Editing(国際ヒトゲノム編集委員会)」としていたが、名称に変更があった。) ・派遣人数の変更(実施計画承認時には、2名の派遣を予定していたが、主催側の選考により1名の派遣となった。) ・派遣時期及び開催地の決定 ・派遣者の決定 <p>※実施計画については第 275 回幹事会(平成 31 年 2 月 28 日)にて承認済み。</p>

令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アースの統合リスクガバナンスプロジェクト (IRGP) 科学運営委員会 (SSC) 年次会合	7月10日 ～ 7月11日	2日	中国 西寧市	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)	第2区分

※令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（平成31年2月28日日本学術会議第275回幹事会決定）に基づく区分

【参考】

令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

〔平成31年2月28日
日本学術会議第275回幹事会決定〕

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和元年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和元年度の内規第51条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

第1区分

・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

・本年度、AC及びGCは各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第2区分

・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及びKAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。

・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

第3区分

・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。

・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。

・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和元年度第2四半期】追加分

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和元年度第2四半期】 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案8 [p. 23-24]	いま問われる物理教育改革 ーより効果的な理工学教育 をめざして	令和元年 9月27日 (金)	日本学術 会議講堂	不要	不要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和元年度第2四半期】追加募集 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案9 [p. 25-26]	日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場 から	令和元年 7月28日(日)	日本学術会議 講堂

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 3 件/土日 2 件） 全 5 件 残り：6 件
 （内訳）※現在の 5 件中、4 件は経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	0	2		
	(平日)	2	1		
合計		2	3		

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全 9 件 残り：23 件
 （内訳）

	関連部等	第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	2	0		
	第二部	1	2		
	第三部	1	1		
	若手アカデミー	0	0		
	課題別	0	0		
学術フォーラム（土日）		0	2		
合計		4	5		

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part2	平成 31 年 4 月 19 日 (金)	日本学術会議講 堂	要	要
2	産学共創の視点から考える 人材育成	令和元年 5 月 22 日 (水)	日本学術会議講 堂	要	要

3	フューチャー・アースと学校教育：持続可能な社会と海洋の実現を目指して	令和元年 9月8日 (日)	日本学術会議講 堂	要	要
4	自動車の自動運転の推進と社会的課題についてー 移動の本能と新しい社会のデザインー (案)	令和元年 9月15日 (日) 又は 16日 (祝)	日本学術会議講 堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等
1	「男女がともにつくる民主政治」を展望するー「政治分野における男女共同参画推進法」の意義 (仮)ー	平成 31 年 4月6日 (土)	法学委員会ジェンダー法分科会
2	「産業動物と食の観点からの One health」	令和元年 5月25日 (土)	食料科学委員会獣医学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会畜産学分科会
3	「子どもの戸外遊びが消滅！？遊びへの社会的介入としての移動式遊び (プレーバス)」	令和元年 6月1日 (土)	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
4	「横行する選考・採用における性差別：統計からみる間接差別の実態と課題」	令和元年 6月8日 (土)	社会学委員会ジェンダー研究分科会
5	ゲノム編集生物の社会受容について考える	令和元年 7月6日 (土)	農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会
6	科学的知見の創出に資する可視化 (2)：「新しい可視化パラダイム」	令和元年 7月13日 (土)	総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会

日本学術会議主催学術フォーラム「いま問われる物理教育改革
—より効果的な理工学教育をめざして」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：日本物理学会、日本物理教育学会、日本天文学会
(いずれも予定)
3. 後 援：応用物理学会、大学教育学会、日本工学教育協会
(いずれも予定)
4. 日 時：令和元年9月27日(金) 10:00～16:50
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：あり

7. 開催趣旨：

わが国の理工学分野の人材育成は近年、質的・量的にその重要度を増している。また、この分野の人材の育成だけでなく全ての市民の科学的素養の保障も重要になっている。世界的にも科学・工学・数学などの領域における大学教育の改善の必要が強く意識されている。大学における理工学分野の教育の効果を検証し、科学的な視点からその改善を図る教育研究領域が国際的に発展しつつある。物理教育研究はその中でも比較的早く始まり広がりつつある。このフォーラムでは、大学の理工学分野の教育の現状について問題提起をした上で、物理教育研究とそれに基づく教育改革の現状を俯瞰する。その上で取り組むべき課題について明らかにする。

8. 次 第：

10:00 はじめに

川村 光 (日本学術会議第三部会員、大阪大学理学研究科教授)

10:10 物理教育研究分科会活動について

笹尾 真実子 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院名誉教授、同志社大学研究
開発推進機構嘱託研究員)

10:20 大学の未来地図

五神 真 (日本学術会議第三部会員、東京大学総長)

10:50 日本の大学の理工学分野教育改革施策

文部科学省

11:20 PER および DBER とは何か—これまでの教育改善の議論との違い

新田 英雄 (東京学芸大学教授)

- 11:50 休憩
- 13:00 学習についての新しい考え方:認知心理学・脳科学からの知見
(調整中)
- 13:30 新しい物理教育実践 1
(調整中)
- 14:00 新しい物理教育実践 2
植松 晴子 (東京学芸大学准教授)
- 14:30 休憩
- 14:50 大学授業効果についての米国と日本の統計調査報告
覧具 博義 (日本学術会議特任連携会員、東京農工大学名誉教授)
- 15:20 SEI 方式の事例紹介と日本での動向
大森 不二雄 (東北大学教授(大学教育支援センター長))
- 15:50 総合討論:日本における DBER・STEM 教育改革のための課題と活動の推進
司会
笠 潤平 (日本学術会議連携会員、香川大学教育学部教授)
指定討論者
鈴木 久男(北海道大学理学研究院教授)(確認中)
村田 隆紀 (日本学術会議特任連携会員、京都教育大学名誉教授、物理教育学会
会長)
- 16:40 おわりの挨拶
岡 眞 (日本学術会議連携会員、日本原子力開発機構 原子力科学研究部門 先端基
礎研究センター長)
- 16:50 閉会

(下線の講演者は、学術会議関係者)

公開シンポジウム「日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場から」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会
2. 共 催：日本人類学会、日本霊長類学会
3. 後 援：無し
4. 日 時：令和元年7月28日（日）13：00～16：40
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

沖縄県には人類遺跡が多く、最近も目覚ましい発見が続く。そこで、日本人の祖先である更新世人に関する現在進行中の研究を広く国民に披露し、さらに、広く人類史という観点で日本人を見つめなおす機会を提供する。

8. 次 第：

司会 河内 まき子（日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所名誉リサーチャー）

13:00 挨拶と趣旨説明

山極 壽一（日本学術会議会長・自然人類学分科会委員長、京都大学総長）

13:10 幻の明石原人から実在の港川人へ

馬場 悠男（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）

13:35 港川人骨のミトコンドリア DNA 全塩基配列からわかること

水野 文月（東邦大学医学部）

五條堀 淳（総合研究大学院大学先導科学研究科）

14:00 沖縄本島サキタリ洞遺跡の調査

山崎 真治（沖縄県立博物館・美術館）

14:25 石垣島白保竿根田原洞穴遺跡と南島の崖葬墓文化

片桐 千亜紀（沖縄県立埋蔵文化財センター）

14:50 休憩

15:05 白保4号人骨の分析と復元

河野 礼子 (慶應義塾大学文学部准教授)

15:30 アジア人類史の舞台として沖縄に注目すべき5つの理由

海部 陽介 (日本学術会議特任連携会員、国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長)

15:55 総合討論 「日本人の祖先の姿を人類の進化と多様性から考える」

モデレーター 山極 壽一 (日本学術会議会長・自然人類学分科会委員長、
京都大学総長)

コメンテーター 諏訪 元 (日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館館長)

中務 真人 (京都大学理学部教授)

16:40 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「和牛の地方特定品種の重要性」開催について

1. 主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会
2. 共催：日本畜産学アカデミー
3. 後援：高知大学
4. 日時：令和元年7月18日（木）：13：00～17：30
5. 場所：高知大学農林海洋科学部 5-1 講義室
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

代表的な和牛の品種である黒毛和種は「霜降り」という肉質を武器に、国内での高いシェアの維持と一層の輸出増が大いに期待されている。一方で、我が国の地方特定の和牛の品種である褐毛和種、日本短角種および無角和種は、黒毛和種とは異なる赤身肉を特徴とすることが認知されつつあるが、飼養頭数は和牛全体の2%以下にすぎない。本公開シンポジウムでは「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（Comprehensive and Progressive Agreement for Trans-Pacific Partnership：CPTPP）」の発効によって国内外の情勢は一層厳しさが増す中で、「和牛の地方特定品種」の遺伝資源としての重要性や各品種における現在の取組について紹介する。各品種における増頭や消費者による認知度と消費の向上に向けての様々なアイデアと実践例の紹介を通じて、これらの希少な品種全般の生産向上に寄与するとともに貴重な遺伝資源の保全にも貢献することが期待できる。

褐毛和種や日本短角種は、黒毛和種と比べて放牧への適性やヒトが食料として利用できない稲わらなどの粗飼料の利用性が高いなどの特長を持つので、我が国における環境と調和した持続的な肉牛生産に貢献する。さらに、中山間地域の産業振興やアニマルウェルフェアの向上にもつながることが期待される。しかし、このような飼養形態はコスト上昇を招くので、販売価格に上乗せされるためには消費者の理解が欠かせない。日本学術会議が有する公益性を踏まえ、本公開シンポジウムは広く一般市民をも対象として、我が国の畜産の将来像に対する関心と理解を深めることを目的とする。

7. 次第：

司会進行 枝重 圭祐（日本学術会議連携会員、高知大学農林海洋科学部教授）
 13：00 開会の挨拶
 飯國 芳明（高知大学研究担当副学長）

13:10～13:50

「希少和牛「無角和種」の遺伝資源保全と活用について」

松本 容二（山口県農林総合技術センター畜産技術部 家畜改良研究室長）

13:50～14:30

「岩手県における日本短角種の現状と振興方策について」

安田 潤平（岩手県農業研究センター畜産研究所家畜育種研究室 主査専門
研究員）

14:30～15:10

「褐毛和種（熊本系）の改良と生産振興」

齋藤 公治（熊本県農業研究センター畜産研究所 生産基礎技術研究室長）

15:10～15:50

「土佐あかうしの生産振興について」

公文 喜一（高知県農業振興部畜産振興課 肉用牛・酪農振興担当チーフ）

15:50～16:40

「希少家畜の持続的生産の重要性—高知大学の取り組み」

松川 和嗣（高知大学農林海洋科学部准教授）

16:40～17:30

総合討論

座長 眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授、授独立行政法人家畜改良センター理事）

17:30 閉会の挨拶

眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授、独立行政法人家畜改良センター理事）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「インセクトワールドー多様な昆虫の世界ー」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会

2. 共 催： 日本昆虫科学連合

3. 後 援： なし

4. 日 時： 令和元年8月3日（土） 13：00～16：45

5. 場 所： 東京大学農学部1号館8番教室

6. 分科会等の開催： 開催予定なし

7. 開催趣旨：

昨年、一昨年と昆虫がヒトに与える恵みの多面性に焦点をあてた公開シンポジウム「昆虫の恵み」を開催したところ、幸いにも非常に多くの方々に参加していただくことができ、大変好評であった。ところで、我々に恩恵や害を及ぼすか否かにかかわらず、地球上には動物種の8割以上を占めるといわれる多様な昆虫が暮らしている。本年は、特に人間との関係にのみ焦点を当てることはせず、昨年までのシンポジウムではカバーしきれなかった多様な視点から昆虫に関わるテーマについて5名の研究者に話題を提供していただく。まず、名古屋大学の土岐博士には、竹の中で酵母を育てるコメツキモドキを例に昆虫と微生物の共生関係についてご紹介いただく。つづいて、信州大学の平林博士には、近年ようやくその分類体系も整備されつつあるユスリカ類について、人にとって益虫とも害虫ともなる彼らの生態を、その防除対策にも言及しつつご紹介いただく。そして、農研機構（食品総合研究所）の宮ノ下博士には、ノシメマダラメイガの生態と我々の社会とのかかわりについて、また、農研機構（九州沖縄農業研究センター）の矢代博士には、これまで予想もされなかった「本来はオスとメスが共同で社会を営むシロアリにおける“オスを失った社会”」の発見についてお話しいただくこととした。最後に、神戸大学の尾崎博士には昆虫の複雑な行動を支える化学感覚について解説していただく。講演と総合討論の座長は琉球大学の辻 瑞樹（和希）教授にお願いする。本シンポジウムが、昆虫をとおして生物の多様性について認識をさらに深める機会となることを期待している。

8. 次 第：

13：00 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告

小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学学術研究所所長）

13：20 日本昆虫科学連合活動報告

伴戸 久徳（日本昆虫科学連合代表、北海道大学農学研究院教授）

講演（座長）辻 和希（日本学術会議連携会員、琉球大学亜熱帯農林環境科学科教授）

13：35 「非社会性昆虫コメツキモドキと菌の栽培共生」

土岐 和多瑠（名古屋大学大学院生命農学研究科助教）

14：05 「ユスリカの世界」

平林 公男（信州大学学術研究院（繊維学系）教授）

14：35 「加工食品で発育するノシメマダラメイガ」

宮ノ下 明大（国立研究開発法人農研機構食品安全研究領域グループ長）

15：05－15：20 （ 休憩 ）

15：20 「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」

矢代 敏久（国立研究開発法人農研機構九州沖縄農業研究センター研究員）

15：50 「昆虫社会の化学感覚と好き嫌い」

尾崎 まみこ（神戸大学理学研究科教授）

16：20 総合討論（座長）辻 和希（日本学術会議連携会員、琉球大学亜熱帯農林環境科学科教授）

16：45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2019」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会

2. 共 催：(予定)

公益社団法人化学工学会、特定非営利活動法人安全工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、一般社団法人電気学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会（幹事学会）、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、特定非営利活動法人日本シミュレーション学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、公益社団法人日本冷凍空調学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人日本リスク研究学会

3. 日 時：令和元年7月3日（水）～ 7月5日（金）10:00～16:00

4. 場 所：日本学術会議講堂 外5室

5. 分科会の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で40年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。平成31年度は、第49回として日本化学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「多様化する社会の安全・安心」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進めている

「安全目標」、「遺棄・老朽化学兵器」をはじめとする検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

7. 次第（案）：

第1日目：7月3日（水）

挨拶 10:00～10:10

日本学術会議 総合工学委員会委員長

吉村忍（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

安全工学シンポジウム 2019 実行委員長

辰巳 敬（製品評価技術基盤機構理事長）

パネルディスカッション 13:40～15:40

PD「安全活動と人材育成」

パネリスト 田村昌三（東京大学名誉教授）、小川輝繁（横浜国立大学名誉教授）ほか

オーガナイズドセッション及び一般セッション 10:20～15:40（36件）

第2日目：7月4日（木）

特別講演 12:30～13:30

「大転換時代と安全・安心（仮題）」

講演者：安井至（一般財団法人持続性推進機構理事長）

パネルディスカッション 13:40～15:40

PD「未来社会の安全・安心（仮題）」（連携PD）

パネリスト 安井至（一般財団法人持続性推進機構理事長）、野口和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学リスク共生社会創造センター長）、須田義大（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）ほか

オーガナイズドセッション及び一般セッション 10:00～15:40（40件）

第3日目：7月5日（金）

パネルディスカッション 10:00～12:00

PD「安全目標の新たな体系化」

パネリスト 野口和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学リスク共生社会

創造センター長)、柴山悦哉 (日本学術会議第三部会員、東京大学情報基盤センター教授)、須田義大 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)、向殿政男 (日本学術会議連携会員、明治大学名誉教授) ほか

基調講演 13:00～14:00

「大型イベントの危機管理～オリパラ・万博等の大型イベントを安全に迎えるために地震からテロまで多様な危機に備える～」

講演者：野口和彦 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学リスク共生社会創造センター長)

パネルディスカッション 14:00～15:40

PD「大型イベントの危機管理～オリパラ・万博等の大型イベントを安全に迎えるために地震からテロまで多様な危機に備える～」

パネリスト 未定

オーガナイズドセッション及び一般セッション 10:00～15:00 (35件)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は主催分科会委員)

公開シンポジウム「第9回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム
(JCOSSAR2019)」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会
2. 共 催：特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会*、公益社団法人日本船舶海洋工学会
(*印：幹事学会)
3. 日 時：令和元年 10 月 23 日（水）～10 月 25 日（金）
(23 日:13:00～18:00、24 日・25 日:9:30～17:30)
4. 場 所：日本学術会議講堂 外3室
5. 分科会等の開催：開催なし
6. 開催趣旨：「構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム」は構造物の安全性・信頼性に関する諸問題について、専門領域を越えた幅広い研究発表および討論を通じて、当該技術レベルと学術の向上を図ることを目的に4年に一度開催される総合シンポジウムである。本シンポジウムは機械・構造物の安全性・信頼性評価に関する最も権威ある国際会議「International Conference on Structural Safety & Reliability」の国内版として長年開催されてきている。
巨大化し脅威を増す自然災害の発生、建物や橋梁などの供用開始後長時間を経た多数の構造物の存在、AI や IOT など情報システムを援用した巨大複雑化する構造物の開発など、信頼性・安全性を保障するための課題が山積しており、これら諸課題に対して関連分野の研究者が一同に会して情報共有と意見交換できる場を提供し、信頼性・安全性確保や推進に寄与する。
7. 次 第：
開催日の最初に、日本学術会議機械工学委員会委員長の挨拶を行うとともに、初日に基調講演1件、2日目に基調講演と学術会議会員、連携会員を中心として、信頼性・安全性確保のための分野別基準の制定状況とその普及に関するパネル討論を開催する。さらに、自由な討論と技術交流を通じて構造物の安全性・信頼性確保に関する研究の推進や技術の向上できるように広範な分野の研究者・技術者が専門の枠を越え、相互に意見交換する研究発表会を行う。

【プログラム】

10月23日(水)

- ・挨拶 13:00～13:15

機械工学委員会委員長 藤井 孝藏

(日本学術会議第三部会員、東京理科大学工学部教授)

機械工学委員会 副委員長 厨川 常元

(日本学術会議第三部会員、東北大学大学院医工学研究科教授)

- ・基調講演 13:15～14:15

「A System Reliability Perspective on Disaster-Resilience」

Prof. Junho Song (Department of Civil and Environmental
Engineering, Seoul National Univ.)

- ・研究発表 14:30～18:00 研究発表 39 件

10月24日(木)

- ・パネルディスカッション 15:00～17:30

「信頼性・安全性に関する基規準の制定プロセスと普及(仮)」

(司会) 調整中

(パネリスト) 関係学会から7名選出

機械分野 酒井信介 横浜国立大学リスク共生社会創造センタ
ー客員教授

建築分野 西嶋一欽 京都大学防災研究所准教授

リスク評価 高田毅士 東京大学大学院工学系研究科教授

土木分野 佐藤尚次 中央大学理工学部教授

船舶分野 有馬俊朗 一般社団法人日本海事協会開発本部長

衝撃分野 園田佳巨 九州大学大学院工学研究院教授

火災リスク 河野守 東京理科大学工学部第二部建築学科教授

- ・研究発表 9:30～14:45 研究発表 48 件

10月25日(金)

- ・基調講演 13:30～14:30

「はやぶさ2の運用とこれまでの探査成果(仮)」

津田雄一 (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
准教授、はやぶさ2プロジェクトリーダー)

- ・研究発表 9:30～12:30 研究発表 33 件

15:00～17:30 研究発表 24 件

※ 研究発表（学協会からの提案に基づき 18 のオーガナイズドセッションを設定。一般講演も募集）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催委員会委員）

日本学術会議の活動状況等に関する年次報告 (平成 30 年 10 月～令和元年 9 月) 作成の方針について (案)

1. 目的

社会に対して広く 1 年間の日本学術会議の活動について明らかにするとともに、外部評価有識者による外部評価の基礎資料とするため、平成 30 年 10 月から令和元年 9 月までの日本学術会議の活動状況を報告する冊子を作成する。

2. 構成

- ・ 構成については例年通り、「第 1 編 総論」と「第 2 編 活動報告」に分冊する。
- ・ 全編共通様式は、“MS 明朝 10.5pt/A4 縦版横書き、余白各辺 20mm、40 文字×40 行”

		頁数の目安
第 1 編 総論		38 頁
1. 表紙		1 頁
2. 日本学術会議憲章		1 頁
3. 目次		1 頁
4. 冒頭挨拶 (執筆担当: 山極会長)		2 頁
…2 年目特筆事項、日本学術会議の活動全般に関する方針を含む。		
5. 日本学術会議の活動		14 頁
① 政府及び社会に対する提言等 (執筆担当: 渡辺副会長)		(2 頁)
…主に科学と社会委員会、幹事会附置委員会、課題別委員会の活動について記載。部・分野別委員会は特に記載すべき事由がある場合のみ記載。		
② 国際的活動 (執筆担当: 武内副会長)		(2 頁)
…主に国際委員会の活動について記載。		
③ 科学者ネットワークの構築 (執筆担当: 三成副会長)		(2 頁)
…主に科学者委員会の活動について記載。		
④ 市民との対話 (執筆担当: 渡辺副会長)		(1 頁)
…サイエンスカフェ、メディアとの懇談、その他。		
⑤ 日本学術会議を支える 3 つの科学部門 (執筆担当: 各部長)		(6 頁)
…各部の活動方針、2 年目の活動 (各部・分野別委員会からの提言・報告の内容 (大学教育の分野別質保証を除く。)、注目を集めたシンポジウム) を記載。		※各部 2 頁
⑥ 若手アカデミー (執筆担当: 若手アカデミー代表)		(1 頁)
…2 年目の活動内容など		

【特集】	6～12 頁
① 設立70周年を迎えて (執筆担当：山極会長)	(1-2 頁)
② CSTI との連携強化 (執筆担当：山極会長)	(1-2 頁)
③ 分野横断的な課題への取組 (執筆担当：渡辺委員長)	(1-2 頁)
④ 国際会議 (執筆担当：武内副会長)	(1-2 頁)
⑤ ダイバーシティに関する取組 (執筆担当：三成副会長、渡辺副会長)	(1-2 頁)
⑥ 地方学術会議 (執筆担当：渡辺委員長)	(1-2 頁)
6. 1年の活動記録(カレンダー等)	3 頁
7. 学術会議の運営状況等(規則改定など)	1 頁
8. (参考) 声明「科学者の行動規範－改訂版－」	2 頁
9. 裏表紙	1 頁

	頁数の目安
第2編 活動報告	142 頁
1. 表紙	1 頁
2. 目次	1 頁
3. 日本学術会議の概要(組織の概要)	1 頁
4. 組織ごとの活動報告	139 頁
(1) 総会	(1 頁)
(2) 幹事会及び附置委員会(委員会：各1/2頁、分科会：各1/3頁)	(6 頁)
(3) 部(各1頁)	(3 頁)
(4) 機能別委員会(委員会：各1/2頁、分科会：各1/3頁)	(10 頁)
(5) 課題別委員会(〃)	(7 頁)
(6) 分野別委員会(〃)	(99 頁)
(7) 地区会議(各1/2頁)	(4 頁)
(8) 若手アカデミー(若手アカデミー会議：各1/2頁、分科会：各1/3頁)	(3 頁)
5. インパクトレポート	6 頁

3. 留意点

- ・記載に当たっては、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値や図、写真も用いつつ分かりやすく述べるよう努める。関連するウェブサイト等があれば記載する。また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載する。

4. 今後のスケジュール

5月30日（木）	年次報告検討分科会開催：年次報告書の構成等について審議
同日	幹事会で年次報告書の①目的、構成等について了承を得る、②原稿執筆者を決定
5月末	年次報告書の執筆依頼
7月19日（金）	執筆原稿の〆切
8月2日（金）	活動報告について初稿を各執筆者に校正依頼
8月末～9月上旬	年次報告書案について年次報告検討分科会で審議（分科会開催）
9月26日（木）	幹事会で年次報告書案を了承
10月16日（水）	総会で年次報告書を報告 ※分科会委員長から報告
11月以降	外部評価有識者に外部評価を依頼（外部評価対応委員会開催）

日本学術会議の活動状況等に関する年次報告 (平成30年10月～令和元年9月) 執筆要領 (案)

1. 執筆者

	執筆者
第1編 総論	「作成の方針」のとおり
第2編 活動報告	
・各部	部長
・幹事会附置委員会、機能別委員会、 分野別委員会、課題別委員会	委員長 ¹
・各委員会下の分科会 ※小委員会は対象外のため、執筆の必要はありません。 ²	分科会委員長
・若手アカデミー	代表
・若手アカデミー下の分科会	分科会委員長
・地区会議	地区代表幹事
その他(総会、幹事会等上記以外)	事務局

※全体構成については別途ご案内の「日本学術会議の活動状況等に関する年次報告(平成30年10月～令和元年9月)作成方針」をご参照ください。

2. 原稿提出期限

○令和元年7月19日(金)(締切厳守)

(締切を過ぎてからご提出いただいた原稿は、掲載出来ない場合があります。)

3. 提出について

○提出・問い合わせ先

(本件事務担当)

日本学術会議事務局企画課審査係 佐藤

E-mail: yuhei.sato.h6w@cao.go.jp

○提出にかかる注意事項

- ・提出内容がわかるよう、メール本文・題名等に委員会等名を記載下さい。
- ・提出方法については、親委員会ですとまとめていただいても、各分科会ごとでもどちらの方法でも構いません。

¹ 現時点において廃止済み委員会等も、対象期間内に活動したものについては原稿提出が必要になります。

² 小委員会について、必要な事項については所属分科会の原稿内に記載をお願いします。

4. 原稿の記載要領

(1) 書式及び分量

- ・第1編/第2編（各部/委員会/分科会/地区会議/若手アカデミー）毎に書式及び目安となる分量等が異なります。以下をご確認の上、御執筆をお願いします。

	様式	分量
第1編 総論	様式1 ³	別紙方針の通り
第2編 活動報告		
・各部	様式2	1頁
・幹事会附置委員会、機能別委員会、分野別委員会、課題別委員会	様式3	1/2頁
・各委員会下の分科会		1/3頁
・若手アカデミー		1/2頁
・若手アカデミー下の分科会		1/3頁
・地区会議	様式4	1/2頁
その他（総会、幹事会等上記以外）	様式2	1頁

※共通

- ・A4タテ版横書き、余白各辺20mm、40文字×40行
- ・フォントはMS明朝10.5pt

(2) 執筆内容について

- ・対象期間内（平成30年10月～令和元年9月）の各活動について執筆をお願いします。なお、明確かつ簡潔な資料となるよう以下につき御協力ください。

- ◇ 箇条書き・である調
- ◇ 年号は和暦（平成（令和）〇〇年〇月）記載（※国際案件は西暦と和暦の並記可）
- ◇ 一般には難解な専門用語の使用は極力避け、使用する場合は説明を追記
- ◇ URLや図表なども使用し、見やすい原稿とすること
- ◇ 発出済みの提言等のフォローアップがあれば積極的に記載すること

- ・年次報告は対外的に日本学術会議の活動を周知するものになりますので、審議内容、具体的な成果など、社会的意義が明らかになるような内容の記載をお願いいたします。

※なお、年次報告は外部評価の基礎資料となります。

- ・平仄を揃えるため、様式等は事務局において修正させていただく可能性がございます。
- ・一度提出いただきました後の修正・追加、または事前に修正発生がわかっている場合等、ご不明な点等ございましたら本件事務担当の企画課審査係へご連絡ください。
- ・前回までの年次報告書は、日本学術会議ホームページ下記URLで御覧いただけます。

http://www.scj.go.jp/ja/scj/nenji_hyoka/index.html

³ 第1編については、各執筆者用に審査係から様式をお送りします。

1. (見出し)

- (1) ○○○○
○○○～

第○部			
部長		副部長	
幹事			
主要な活動	審議内容		
	意思の表出（※見込み含む）		
	開催シンポジウム等		
開催状況			
今後の課題等			

■記載いただく内容は、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値も用いつつ分かりやすく述べるよう努めてください。関連するウェブサイト等があれば記載してください。

また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載してください。

■開催状況の記載について

（例）平成30年11月8日、令和年5月13日※メール、など

※正式なメール会議は記載ください（メールでの意見交換等は記載不要）。

〇〇委員会（〇〇分科会）					
委員長		副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況					
今後の課題等					

■記載いただく内容は、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値も用いつつ分かりやすく述べるよう努めてください。関連するウェブサイト等があれば記載してください。

また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載してください。

■開催状況の記載について

（例）平成30年11月8日、令和元年5月13日※メール、など

※正式なメール会議は記載ください（メールでの意見交換等は記載不要）。

■分量

- ・委員会・若手アカデミー…約1/2ページ
- ・分科会…約1/3ページ

〇〇地区会議		代表幹事	
主な活動	審議内容		
	開催シンポジウム等		
開催状況			
今後の課題等			

■記載いただく内容は、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値も用いつつ分かりやすく述べるよう努めてください。関連するウェブサイト等があれば記載してください。

また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載してください。

■開催状況の記載について

（例）平成 30 年 11 月 8 日、令和元年 5 月 13 日※メール、など

※正式なメール会議は記載ください（メールでの意見交換等は記載不要）。

■分量…約 1 / 2 ページ